

あなたもエコファーマーになりませんか



エコファーマーであることを示すマーク

国・県では、堆肥等による土づくりと化学肥料・化学合成農薬を削減する技術を一体的に行う持続性の高い農業を推進しています。また、県では、このような技術を導入した農家をエコファーマーとして認定しています。山武郡市では、昨年までに延べ757名が認定を受け、県内でも最も多い地域となっています。大勢の方がエコファーマーを取得した産地は、環境に配慮した生産を行っているとして、信頼にもつながります。

○今年の動き

山武郡市農業協同組合トマト部会では、「部会員全員・全作付け面積で」を目標に取り組み、5月に178名が認定を受けました。この内の多くの方が、再認定で、環境に配慮したトマト部会員の意識の高さがうかがわれます。丸朝園芸農業協同組合花卉部でも、昨年度からエコファーマー認定に向けて取り組み、6月に51名の方が認定されました。花卉部は日本一のサンダーソニアの生産部会でもあり、以前から土づくりに重点的に取り組み、農薬を使用しない土壌消毒として、蒸気消毒を導入するなど環境にやさしい農業に取り組んでいます。

○手続きは農林振興センターで

認定を受けるには、土づくり技術・化学肥料低減技術・化学農薬低減技術の導入計画書を提出しなければなりません。申請・詳細内容等は農林振興センターにお問い合わせ下さい。

人材力を生かして！農業体験フェスタ2008開催

JA 山武郡市九十九里青年部(会員 14 名)主催の農業体験フェスタは今年で 3 回目の開催となりました。青年部員は農業を担う若手の人材です。

農業体験では農業の大切さと自らが手をかけた農作物のおいしさを実感してもらうことをねらいとしました。5 月 10 日に夫婦・家族連れ・小学生のサッカーチーム等、多彩な 43 名が参加し、とうもろこしの種まきとさつまいもの苗を植付け、にぎやかな農業体験交流となりました。

参加者からは、「雨模様だったけど来てよかった」「ちゃんと芽が出るのかな」など関心も高く、これからの生長が楽しみな様子でした。

九十九里青年部の活動は町の魅力づくり・活性化につながり、消費者と生産者、都市と農村を結ぶかけはしとしてますます期待が寄せられています。

今後の予定として7月初旬にベビーコーン収穫、8月上旬とうもろこしの収穫祭、10月にはさつまいもの収穫祭が計画されています。



部員から説明



種まき、がんばりました

坂田の梅の魅力を PR

坂田城跡梅林組合のもぎ取り・加工体験

横芝光町の坂田城跡には、約4ヘクタールの梅林があり、梅林組合14戸が産地を支えています。

6月7日と14日に、消費者に梅の魅力を知ってもらい消費拡大につなげようと、加工体験ともぎ取り体験を行いました。約30名の消費者が青梅のカリカリ梅と梅ジャムづくりを体験し、「梅加工のレパートリーが増えた、また参加したい」と大満足の声が聞かれました。

また、梅のもぎ取り体験では、組合長は梅の見分け方や高齢化している産地の現状を話し、消費者交流で産地を守っていきたいという熱い想いを伝えました。

参加者は2kg入りのかごいっぱい青梅をもぎ取り、「グループでなら梅の木のオーナーになりたい」と坂田の梅応援団的感想も聞かれました。今後も、歴史ある坂田城跡の梅林に梅の花が咲き続けるよう組合員は知恵を出し合い取り組んでいきます



カリカリ梅、つくっています



大きい梅、見つけた！

産地でがんばっています！

マイペースで顔の見える米作り一筋

大網白里町小中地区で米の生産から販売までを手がける岩瀬栄一さんを紹介します。岩瀬さんの経営面積は12ha。都心を中心とした固定客を対象に、“宅配便よりも手渡しで”をモットーに対面販売を心がけています。

こうして得た消費者の要望を生産にも生かして、安全・安心を心がけ、品質とおいしさにこだわった米作りに取り組んでいます。さらに、土作りについては、米ヌカを用い、減農薬、減化学肥料のちばエコ米生産にも取り組んでいます。

一方、農作業と販売活動を両立させるため、全量苗箱施肥などの省力技術を取り入れるなど、人一倍研究熱心な面もあります。

今後については、「規模拡大にも努めていきたいが、無理のない範囲にしたい」と語る岩瀬さん、理由を尋ねると、「自分の時間・余暇も大事に、そしてさらに顔の見える生産・販売に努めていきたい」とさわやかな笑顔で語ってくれました。



ちばエコ米の生産ほ場にて

紹介します！千葉県が育成した品種

丸くて、大きくて、形がそろったおいしいさといも「ちば丸」

千葉県のさといも産出額は46億円(平成18年農業産出額)で全国1位の産地です。

北総台地を中心とした露地野菜地帯での重要な輪作作物の1つとなっています。

「形状が丸く、大玉で、良食味、多収」をめざし、千葉県農林総合研究センターで育成

したさといも「ちば丸」は、平成19年に品種登録され、今年より栽培されています。千

葉県のさといも産出額は46億円(平成18年農業産出額)で全国1位の産地です。北

総台地を中心とした露地野菜地帯での重要な輪作作物の1つとなっています。「形状

が丸く、大玉で、良食味、多収」をめざし、千葉県農林総合研究センターで育成したさ

といも「ちば丸」は、平成19年に品種登録され、今年より栽培されています。

栽培特性は「土垂」と同じ中晩生品種で、5月上旬植えて11月以降の収穫となります。

孫いもの形状は「俵」～「卵形」、大玉で、揃いが良く、総収量は土垂並ですが、上物

収量が多くなります。

イモの品質は、肉質が柔らかく良食味です。ぬめりが少なく丸いことから、皮むきしや

すく、煮物や加工に適します。

種イモは種苗店等で取り扱っています。栽培についての詳細は農林振興センターま

でお問い合わせください。



丸くて、大きい「ちば丸」

農産物加工へのステップ4

パッケージとネーミングは商品の顔

加工品を販売するにはパッケージとネーミングは重要で、お客様が商品を選ぶ選択肢の一つとなっています。商品のパッケージは、以下の3点がポイントです。

1. 品質を保ちゴミや虫が入らないよう密封されている
 2. 梱包や積み重ねる事を想定し、壊れにくいパッケージである
 3. 高級感やボリューム感など印象に配慮し商品価値を高めるパッケージである
- 安全面に配慮し、針が飛び出しやすいホチキスは使用せず、セロハンテープや熱シールでとめるようにします。

またネーミングもオリジナル商品をアピールする手段です。商品の特徴を一言で表現し、覚えやすく、自分の思いが伝わるネーミングにするとよいでしょう。オリジナルシールを作成し、印象づけるようにします。

当然、パッケージやシールは、原価に反映されますので販売価格は上がりますが、お客様の満足度を高めるためにもマイブランドを創り上げましょう。



オリジナルシールで印象アップを図ろう